

2026年度 環境教育講座

整理番号: 20250819

事業名	環境教育およびエコロジカルライフを実践するための講座開催事業		
活動名	循環型社会の実現に向けた環境行動の実践に向けて		
担当者	高根 美保	主催団体	NPO法人エコライフはままつ
事業区分	講師派遣	事業サイクル	継続事業
活動の目的			
廃棄物・リサイクルへの理解を深め、日常生活および業務における環境配慮行動（3R・エシカル消費）の実践意欲を醸成する。			
実施内容			
活動日時	2026年8月19日（水）14:00～15:30		
活動場所	浜松市立西部清掃工場 えこはま（浜松市中央区篠原町26098-1）		
活動者名	高根美保		
詳細	循環型社会の実現に向けた資源循環の強化 ・ごみって何？ ・廃棄物法について ・ごみの歴史 ・環境行動（3R）・エシカル消費について ・西部清掃工場見学 ・地域企業の環境報告書紹介		
事業の成果	参加者 新入社員 3名+引率1名（株式会社川嶋） 配布物:清掃工場パンフレット、ミニ水筒 リサイクル実践:ごみ減量 2.9kg（紙容器リサイクル 2.0kg、ハブラシリサイクル 37本 0.4kg、アルミ付き紙パックリサイクル 0.4kg、紙パック 0.10kg） 成果: 環境保全が一人ひとりの努力で成り立っているという当事者意識を植え付けることができました。しかし、リサイクルは、単に「正しく分別する」レベルに留まらず、「ごみの発生自体を減らす（Reduce）」視点や、資源の定義を正しく理解することが不可欠です。更に3Rの正しい優先順位に基づいた思考と行動ができるよう、継続的な動機付けと指導が必要です。 <参加者の感想> ・ごみピットに溜まった大量のごみを実際に目にしたことで、日頃の分別の重要性、環境負荷の大きさ、そして巨額の処理費用が発生している現実をリアルに体感した。 ・「家にあるものは全部いつかはごみになる」という言葉が強く印象に残り、物を購入する段階で「本当に必要か」を一度立ち止まって考える意識（リデュースの視点）が芽生えた。 ・商品選択の際にエシカル消費を意識し、無駄のない賢い買い物をしようという具体的な行動目標を持つことができた。 ・展示中の「地域企業の環境報告書」の取り組み資料に触れ、ビジネスと環境保全の関わりについて知的好奇心を刺激された。		
事業の課題	・リサイクルの仕組みは理解しているものの、「リサイクルできるモノ」と「ごみ」の根本的な違いを言語化できない。 ・ごみを減らす努力が「リサイクル（Recycle）」のみに限定されており、3Rの優先順位（1. Reduce 2. Reuse 3. Recycle）が真逆になっている。 ・「ごみを出さない工夫」などの行動は行っている、「そもそもそのごみは何だったのか（発生源や材質など）」を深く考えて行動できていない。		

